

823  
M8N2

娥以入楚

蓮生

15

*[Faint, illegible handwriting on the left page]*

*[Faint, illegible handwriting on the right page]*

蓬生

北七案

源氏君近以广治后常陆姬君乳落御托后事  
文中荒廢本一以上是源氏君元立之年間本之大根也  
源氏内系本

十月故院御八薄本

檀大紀云々

姫君御乳母侍臣伴媛大式下方下向筑紫受

北八案

四月渡花友里沙々次見付蓬生文以惟光御消息本

同時源氏君分入蓬生落御本

送衣裳お蓬生文又令拂返草本

可存渡二系院东院之由舟返本

以上尚存此等之口指此並云々

此布此詞云二とせりりこれ文よありあけてひんこれ魂云々

而よるんのりあふりりあふりりあふりりあふりりあふりり

仍中よ八園屋此項よ蓬生此並云々り但は寒の布給に月

此よりよ此處云々ひんあふりり園屋をい育れあふりり



よのきよなる宿を尋ねてはけけりし源氏女は四月に於て  
是をりて横に並べりいとけりし

并に是の横に並べり源氏女は八月に於て是の事なりと云ふ事なり  
くは未だ事なり又未だ初は二とせりり此の事なりと云ふ事なり

未だ事なり成りぬれぬ也但未だ事なりと云ふ事なり  
圖書横に並べり或は流しよと云ふ事なりいと云ふ事なり

並にいと云ふ事なりいと云ふ事なりいと云ふ事なり  
私並に事なり流しよと云ふ事なりいと云ふ事なり  
は未だ事なり成りぬれぬ也但未だ事なりと云ふ事なり  
二条に於ていと云ふ事なりいと云ふ事なりいと云ふ事なり  
いと云ふ事なりいと云ふ事なりいと云ふ事なり  
四月に於ては未だ事なりいと云ふ事なりいと云ふ事なり

いと云ふ事なりいと云ふ事なりいと云ふ事なり

源氏平寄

源氏平寄の付れしをりしなりいと云ふ事なり

私に於ていと云ふ事なりいと云ふ事なりいと云ふ事なり

いと云ふ事なりいと云ふ事なりいと云ふ事なり

いと云ふ事なりいと云ふ事なり

源氏平寄の付れしをりしなりいと云ふ事なり

二条に於ていと云ふ事なり

いと云ふ事なり

いと云ふ事なりいと云ふ事なりいと云ふ事なり

いと云ふ事なりいと云ふ事なりいと云ふ事なり

いと云ふ事なりいと云ふ事なりいと云ふ事なり



むしかなき末橋のたわりのやうなりきとち

さるひふありけきこらき 并 さひいさふせきこらけのすし

しきうしひいさやわしひいひけ い 井くさひいきおよのこ

いしを原の由んこくまて中法多きてしきうしひいひいひいひい

ふいさなるさんりいひいひいひいひいひいひいひいひいひい

くちいしひいひいひいひいひいひいひいひいひいひい

そわりのあきんこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

あつしきつしきつしきつしきつしきつしきつしきつしきつ

みれしきつしきつしきつしきつしきつしきつしきつしきつ

めんしきつしきつしきつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまて中法多きてしきうしひいひいひい

夕顔の美よあり

けしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

うしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

いしを原の由んこくまのつしきつしきつしきつしきつしきつ

さう物えうづて... 辨 潤なたをわのとも... 此若

あうの志とせめらふま... 計舎とれをさやれ潤後... せうそふものほのれま... 計舎とれをさやれ潤後... せうそふものほのれま...

めいらくれまよわ... 未摘の初... 宗廟之器不鬻於市 礼記

けう... 未摘の初... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

阿闍梨 あつろ 禪師此名なり 醍醐のありと云ふ

常陸宮 あつろ 禪師此名なり 醍醐のありと云ふ

蓬生君 あつろ 禪師此名なり 醍醐のありと云ふ

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記

あうひきこゆ... 宗廟之器不鬻於市 礼記



八月野... 雑念... 川の年...

多かりあえ 物々の細くありしるさゆい

これ文をや... 野暮 殺し

里いあれて... 東坂のゆふあり

私に引用... 貧家津掃地

東坂のゆふあり... 貧家津掃地

私に引用... 貧家津掃地

東坂のゆふあり... 貧家津掃地

私に引用... 貧家津掃地

東坂のゆふあり... 貧家津掃地

私に引用... 貧家津掃地

東坂のゆふあり... 貧家津掃地

私に引用... 貧家津掃地

東坂のゆふあり... 貧家津掃地

私に引用... 貧家津掃地

東坂のゆふあり... 貧家津掃地

私に引用... 貧家津掃地

あめいしあしははらけりやなほいそそ双紙のふとを在神なりや  
うらけり

うのせれんうしめあふゆらりま い神とあゆまき

私じうのゆらんうんしきまもせぬ又教珠なりしゆりしを

せさりし有仁云れまとうけるも佛若をさるまふとそ捨

麻あく教をとりゆめあふあや

ふふふふりぐそあの一はける 未摘れ在神なりさゆといひ

はるまゝの法落し

信長たしつひし一ぬめのしき 未摘れ乳母乃女

あくまそそね 是し時そ無徳へありしうけり

はあくそねそねしふる面白くしけれ

あしひありし無徳 是養れ是はありぬ無徳れ

あしひ無徳誰ともなり

はひめあれそ君れこのちかき 未摘れおんこ

常陸交れゆ方は未摘れいしおちりやれて交れは女はぬて長き色

ひしめいしうつさ 未摘れおんちあれ女ともあ

う海しあつしとむびげまゝぬありハ 是る洗月さけも未摘れ通夜

未摘れあ女がの一向しぬありりそ交れあきりしあつあ

おちぬああふんりあやなまてあひしそこひてゆはれ

採よはんとむいしあ

私これえゆはてのまこもさうたまる人し交れあ

のあれあさうしうさう人あまあま下まゝぬあれあ

いさしあまてゆはうりあこあやなりしハゆはれ親のま

今うまあくを 未摘れさうまう在神にやれおんちまもま

しつひ通しぬりぬなり

このまをいせしあひてあてあせ

未摘のおんちあれあまこまは交れのまかりらとそ未摘の

あまあ方けしうらあてまうなりしうらあていあおん

あれ未摘のおちりやれあまうらあていあおん

りしありけういさやれあみくおん

けはたろせまうあまれあまうあたそし難性も一人と我身

をあらうそまあひあまういしそえやんてなうまられ



さゆな成りしりさやしるよりなり  
源氏よりいひしりゆのふ人を大將教と

西教原

源氏還は左將事不見但思女唐より日比志こくやし  
あよりし  
私源氏ゆふれされかともゆひつり  
やむたよのいひしりゆのふ人を大將教と

えんけいけいせり

并ウケイト書

の怨うけいひのあしき世の中は呪咀の日本紀ゆは誓ノ字を  
うけいけいせり

さあけいひのあしき世の中は呪咀の日本紀ゆは誓ノ字を  
うけいけいせり

源のゆふはふれされかともゆひつり

さあけいひのあしき世の中は呪咀の日本紀ゆは誓ノ字を  
うけいけいせり

未橋志本はあよきまきりて切りて月日具るゆひなり  
ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり  
ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり  
ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり  
ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり  
ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり  
ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり  
ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり  
ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり  
ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり  
ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり

ゆふはふれされかともゆひつり

こいさののきあふあれり 并四

私深の如くもれり 可れり 未橋乃 家身ひし 何のそ  
屋ふあひりし 何京もそ 何あひりし 何のそ 何のそ

人志をそ 何のそ 未橋乃 何のそ

大武乃 何のそ 未橋の如く 何のそ 如是人 難慶 心在り  
仏心ありし 何のそ 何のそ

未橋乃 父交 何のそ 何のそ

おこし 何のそ 未橋を 何のそ 何のそ

世れ 何のそ 何のそ 何のそ

世れ 何のそ 何のそ 何のそ 何のそ

中書 何のそ 何のそ

力中 何のそ 何のそ 表中 何のそ

大武乃 何のそ 何のそ 何のそ

ひ 何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

何のそ 何のそ 何のそ

いづらつらんごころ

いづらつらん事ゆへりともなごころ

常陸をよれよゆい

彼よのいぬ魂れあらは御ん

此時分明なる此の彼

本よ八傳をよれごりりごころついでせりよ八傳標をよれ各  
月よ即八傳一傳をよれ今初又以同一三卷を三傳とし又源氏仁大  
仁八明年は二月にけ禪師よれ初よし大納言なる八傳を  
ついでし横のよれ初にけは並此の初中失説をよれ定之氣が本  
源光の初にけは並一傳を二傳に作行にけは圓座をよれ立  
ありそのれは時代前後の圓座をよれ源氏ゆき此の年常  
陸のよれなるゆきよ源氏よ山治をよれひきりりものこ  
む十月の事すこころをよれ此の事すこころなり

并んをよれついでいづらつらん八傳をよれ同事ゆへり十月の事すこ  
私にふるをよれついで即八傳をよれ八傳をよれひきりりものこ  
ゆきよ八傳をよれついでいづらつらん八傳をよれついでいづらつらん八傳をよれ  
せよらんものこついでいづらつらん八傳をよれついでいづらつらん八傳をよれ

志す大納言

志より源をよれ八傳ありついで

をせん一ゆきりものこ

いづらつらん

生佛あら

けりけり

佛菩薩をよれたはる源をよれは福師

似合をよれ

すけりけり

いづらつらん

五傳は初見、煩惱、衆生、命々

法花疏云初濁壹別体但紉四濁立此假名煩惱濁指四鈿使  
為体見濁指五利使為体命法指使連落持色心為体記云准  
悲花經八万至三万亦未有二万歳為五濁如云

源をよれ

禪師をよれ

いづらつらん

未橋をよれ

いづらつらん

源を佛菩薩に變化をよれ

よれついでいづらつらんついでいづらつらんついでいづらつらんついでいづらつらん  
ついでいづらつらんついでいづらつらんついでいづらつらんついでいづらつらん  
ついでいづらつらんついでいづらつらんついでいづらつらんついでいづらつらん  
ついでいづらつらんついでいづらつらんついでいづらつらんついでいづらつらん

久保の書にありありと

未摘れぬよさそいひおゆるし

あ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

さいきょう〜〜〜〜〜〜〜

大哉少方の未摘人

かきりし〜〜〜〜〜〜〜

脚さ〜〜〜〜〜〜〜

未摘人脚さ〜〜〜〜〜

おり〜〜〜〜〜〜〜

大哉少方のおり〜〜〜

た石れ〜〜〜

門乃石れ〜〜〜

その〜〜〜〜〜〜〜

大哉少方おつ〜〜〜

い〜〜〜〜〜〜〜

将翹 宗元 舍中竹下用三任 文選云三任乾荒 陶淵明

三徑ハ門はゆ〜〜〜

と〜〜〜〜〜〜

あ〜〜〜〜〜〜

車に〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜

煩費丸

私或抄中書言皆は後り〜〜〜

大哉乃少方れぬよさ〜〜〜

〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜〜

未摘れ事〜〜〜

脚さ〜〜〜〜〜

おりの〜〜〜

さか〜〜〜

うら〜〜〜

大哉少方れ〜〜

〜〜〜〜〜

取まお〜〜

〜〜〜〜〜

おり〜〜

常懐まれ少方〜〜

〜いひつげりりし〜とあり〜  
未橋乃おのふれな〜ぬる〜ていひしこ  
か 源氏若は時をたおを去り〜女房を〜い  
いひつげりりし〜とあり〜  
未橋乃おのふれな〜ぬる〜ていひしこ  
か 源氏若は時をたおを去り〜女房を〜い

〜いひつげりりし〜とあり〜  
未橋乃おのふれな〜ぬる〜ていひしこ  
か 源氏若は時をたおを去り〜女房を〜い  
いひつげりりし〜とあり〜  
未橋乃おのふれな〜ぬる〜ていひしこ  
か 源氏若は時をたおを去り〜女房を〜い

〜いひつげりりし〜とあり〜  
未橋乃おのふれな〜ぬる〜ていひしこ  
か 源氏若は時をたおを去り〜女房を〜い  
いひつげりりし〜とあり〜  
未橋乃おのふれな〜ぬる〜ていひしこ  
か 源氏若は時をたおを去り〜女房を〜い

〜いひつげりりし〜とあり〜  
未橋乃おのふれな〜ぬる〜ていひしこ  
か 源氏若は時をたおを去り〜女房を〜い  
いひつげりりし〜とあり〜  
未橋乃おのふれな〜ぬる〜ていひしこ  
か 源氏若は時をたおを去り〜女房を〜い



なまこ... 竹根... 竹根

竹根... 竹根

未摘... 竹根... 竹根

私... 竹根... 竹根

川... 竹根... 竹根

或... 竹根... 竹根

私... 竹根... 竹根

私... 竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根

竹根... 竹根



弁 任者物類もとりひれあしぬちい庭家とけなけ敷く

私あしつら川弁て不及言此海さゆくあり海さる

たれともしひとゆさつりばか人え 竹屋君のまこ

ちりつゆ記 ちかつりりゆかたり

私ちつらとゆさるゆさるゆさるゆさるゆさる

彼よのくさつり人よ ぬあつり人さあつり

ひいつけあつりてつらつらつらつらつらつらつら

私け辰を源氏此ゆ京しゆさつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

辰の源氏さつりつらつらつらつらつらつらつらつら

あつてその人さ 未摘の源の御供つらつらつらつらつらつら

け未摘の君さつりつらつらつらつらつらつらつらつら

とつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

卯月さつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

は先ちつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

り卯月おつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

鶴は弁乃借書さつらつらつらつらつらつらつらつらつら

又私渡標考さつらつらつらつらつらつらつらつらつら

娘秀乃あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あいのうへつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

さつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

お月あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

さつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

これまた神様を祀るなりと

いふありき

源のおりしき車とていひ

あつたつた此まきとて

源の惟光は信じて

いひありき

惟光の忠告

いひありき人

末編

いひありき人

そのうち末編の序より

いひありき人

後此極秘とていひ

源のまゝの語といひたりとて人かとの位は言はれていふと源の用は

いひありき人 打つた面をいひわすのいひ

いひありき人 遠生を此神とていひたりとていひ

いひありき人 父まのいひとていひ

いひありき人 掃除とていひ

いひありき人 掃除とていひ

いひありき人 掃除とていひ

未編 此れ人をいひたりとていひ

辨げ方の感あるなりとて

いひありき人

いひありき人 此のいひにありき

いひありき人 後此末編をいひ

いひありき人 惟光のいひ

いひありき人

注本に惟光のいひ

いひありき人 此のいひにありき

いひありき人 惟光のいひ

いひありき人 惟光のいひ

いひありき人 惟光のいひ

いひありき人 惟光のいひ

いひありき人 惟光のいひ

いひありき人 惟光のいひ

いひありき人 惟光のいひ

新樂府古塚流云大尾曳作長紅裳

尾を細乃翁よなせりし物衣もくは男をこくは梳の变化  
よやくくくく其肘之尾を物衣は袷は愛止くく男  
くくく女も毎变化止くゆつて

あーくひるんくけぬあーくゆわき 是より惟光視し

うーぬ脚ありきゆ 未摘れぬのうーぬを源とくく物

うーんとおひはくく二背と門外をこくくはるぬくく

うーゆやきくき ありはくくくに宮やき

うーせぬく脚もくゆなくくハ 走んぬぬ年くくく人

うーく未摘れぬゆつうくくゆ法弟の原にそのまうハ

おいせん止りそくくくくくくくおひゆくくく

くーぬくく人思ぬま 是れより走んぬのくくくく

うーゆ未摘れぬゆつうくくくくくくく年月は年

なくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

うーく先けぬをゆへくくくくくくくくくくくく

なくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あーくあんぬくくくくくくくくくくくくくく

いーくくくくくく 源乃姓辨勝し

あゆみはたきくくくく 源のわく脚かを情るくくく

あゆみはたきくくく

いーくくくくくく ありまくくくくくくくく

あゆみはたきくくくく

うーくくくくく未摘れぬゆつうくくくく

あーく入りんくく ありんぬゆき未摘れぬおひ

あーんぬゆきくくく

ゆーも脚きくく 先ながら後てくく物種をぬらん

あゆみはたきくくくく

あゆみはたきくくくく

は内をくくくくくく

あゆみはたきくくくく

えーくくくくくく 惟光は源へくくく

源

あゆみはたきくくくく

印よりこら後ふのありて  
私をくも家こくても必とて未傷れこらありてありて  
さうばいに別人をんむてするまゝ死にまかすは心  
やうに源の仁怒るる心殊勝とば未傷れこらあり  
貴公より御らんてなれぬあゝとあり  
なほむりありて  
後光れ遂に乃あれむりてしゆをせむ  
後車一てうらへり後よをさ  
卿されば高とるれむりて  
私事在人種々に成  
源とていふも只何れゆなく而さるの家をさるは報して  
さうにいふるとかへて但る後学は河海弘安源氏端義は  
左よりいへ

弘安源氏論議云

十五番

為方

元分始より死よりさう病をさるむりてとるゆ  
これよりさう乃系氣り又中絶するなり  
具顯朝長

具顯朝長

右問云

此事日頃と云ひありて又難を教もいふなり  
氣りありてつづいて但るひきをるなり  
後あひひりてひけりてさうにさうなるなり  
此問中ハ意の多きをむれむりてさうなるなり

右申

此変を相遠けりてさうなるなり  
て芽渡さるる未撮なるなり又難を右可及可為持  
ありてはそこの終のさるれめなり  
ありてはそこの終のさるれめなり  
みりてはそこの終のさるれめなり  
ありてはそこの終のさるれめなり  
ありてはそこの終のさるれめなり  
ありてはそこの終のさるれめなり



くそかなしけりさゆをこりりたる也  
いひし母もふ  
いひし母もふ  
いひし母もふ

いひし母もふ  
いひし母もふ

私今よりいさなまらふゆ  
いさなまらふゆ

さしとおかされぬ事  
即ちよりこのこちへ  
いさなまらふゆ

まてれひひなはひ

まてれひひなはひ  
まてれひひなはひ  
まてれひひなはひ

私れ沙粒もつれひひなはひ

まてれひひなはひ  
まてれひひなはひ  
まてれひひなはひ

まてれひひなはひ

まてれひひなはひ  
まてれひひなはひ  
まてれひひなはひ

まてれひひなはひ

私川よびまらふ事  
私川よびまらふ事

私川よびまらふ事  
私川よびまらふ事  
私川よびまらふ事

私川よびまらふ事  
私川よびまらふ事  
私川よびまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事

童児悉成人園林悉喬木

源  
ありまらふ事  
ありまらふ事

源  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事

ありまらふ事  
ありまらふ事  
ありまらふ事



おれ乃よりおれはあきらむるべし  
何れこれたえぬあきらむるべし

私情よりいへばおれは

又いへばおれは  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし

と未端

大いなるおれは  
又いへばおれは  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし

おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし

おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし

おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし

私花鳥はたておれは

おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし

おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし  
おれはこれいふべし

あつりて又堂へ入りて奥へ云敷叔子といふ  
人のいふに能く此れに似たりと云ふれり  
毛詩曰昔者顔叔子独处室隣之整又独处於室夜暴風雨  
至而室壞婦人趨而至顔叔子曰納之而使執爨於平且爇  
盡壞屋而繼之自以為避嫌不審矣若其審者宜如魯人然  
魯人有男子独处室者隣之整婦又独处室夜暴風雨至而  
室壞婦人趨而詭之男子閉戸而不納婦人自饋与之言曰  
子何為不納我乎男子曰吾聞也男女不六寸不同居今子  
幼吾又幼不可以納子婦人曰子何不加柳下惠然媼不遠  
門之女園人不称其乱娶男子曰柳下惠固可吾固不可吾  
將以吾之不可學柳下惠可孔子曰欲學柳下惠未有似於  
是 卷伯篇 此事毛詩史記以下共以為室孔堂ト云一如何或  
云堂者佛閣人家通孔佛閣堂人家堂之邑各別也塔一向  
佛菩薩之住所也非室也矣若今物語堂字ヲ書誤歟魚魯  
之疑也 又云注文選有取見云未勘

或説云くこれ中納云乃物説云物より源氏物説此れ也  
此れ云貪家此女号大姉 此下此れ云くをさぬりぬりてさる  
事ありあはれ中死丁に物別れ破家也  
おれさゆまそくゆりに多し 和後乃物説のさるる

此個をたれつらぬるを源氏此れなりておれん此れ中しむし  
物説は塔なりてゆりて乃命なりと云ふもけりる事 多し  
さやれぬりてさるるに由調成たれりぬを説く此れ也  
初さるる人おつて 是くも未摘れ神保のおれん  
さるるもそそき 凡流なるんそくみありれん

御めくつこくれつねよ 井花らるる家の子ゆしと云わ  
るぬあはれ未摘れ家の阿婆さるるもあやし神保ぬり  
とくおれぬりてさるる 未摘れまればさるるゆし  
卯の花交里さるるぬあはれゆりぬりぬり

ゆつりこけい 賀茂系 舟池御櫻 春日  
さるるさるるゆりぬりぬりぬり 源の由説さるるゆりぬりぬり

これまゝのハ 未摘れ意へ

志の人も 下都へ

いさゝかとのよみの ちとついでにのすれ

私やそて二条北東の境へいさゝかついでにのすれ  
てこれ修理をいさゝかついでにのすれ

いさゝかついでにのすれ 源のちりひる事なるに

御みやいさゝかついでにのすれ 源の未摘れはついでにのすれ

いさゝかのちりひる事なるに 二条境へいさゝかついでにのすれ  
いさゝかのちりひる事なるに 品はさついでにのすれ

いさゝかのちりひる事なるに 品はさついでにのすれ

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

いさゝかのちりひる事なるに 源のちりひる事なるに

英公  
冬平  
如流

主人有和花竹有和とつていふ

しつ子おひらるにしとまひしれ

下家司

源の下家司はれ教うしつひの中もあつてつひのぬやれ人の  
は常陸まゝ参りて追後しつひとて是も源の意しつひとて是も

あつとせえりしつひとて

并は初まて一兩年ころ

花是よりハ物流れ家より後れ事と次り裁り家司

あはれゆいあつとつて

ちうはあれれりしと

并

年れつりあつとつて例乃れ未とて

つれ大式乃れつ

米徳れあつとつてあつとつて

あつとつて今とつて徳忠をりし事と船つとつて後れつと

今とつとつていふと

并紫式部詞

は是の後のあつとつて家首界しつとつて

しつとつと

何とあつとつてあつとつて

あつとつと

これと二位は書りしつとつて

とつとつとあつとつとあつとつとあつとつとあつとつとあつとつと

あつとつとあつとつと



